

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (沖縄)	◎	家電量販店（総務担当）	・ワクチン接種が進めば、欧米のように爆発的な消費回復が期待される。
	○	コンビニ（副店長）	・1回目のワクチン接種者も周りに増え、人流が今後活性化することに期待する。
	○	観光型ホテル（企画担当）	・ホテルの7月の販売室数は、東京と沖縄の緊急事態宣言の影響もあり前年比49%減なのに対し、7月末時点での10月の予約室数は前年比9%減で、マイナス幅が小さくなっている。
	○	住宅販売会社（役員）	・ワクチン接種効果の期待もあり、現状が芳しくないことも考慮し、景気は上向くとみられる。
	□	一般小売店〔酒〕（店長）	・東京オリンピックで人流も増えて、新型コロナウイルスもまん延している。それでも国民は関係なく、外を出歩いている。人流を止めない限り新型コロナウイルス感染者は増える。経済も円滑に行かない。
	□	百貨店（店舗企画）	・緊急事態宣言中であるにもかかわらず、新型コロナウイルス新規感染者数が減らないこともあり、イベントや物産展の大々的告知を控えざるを得ない状況である。
	□	スーパー（販売企画）	・ワクチン接種が進めば景気は良くなるとみられるが、現状は余り進んでいないようである。また緊急事態宣言が8月末まで再々延長となっている。感染状況が緊急事態宣言発出前に戻るためには11月頃まで掛かる話もある。そのような状況であれば、景気は変わらないか、悪くなると予想される。
	□	コンビニ（代表者）	・全国的に新型コロナウイルス新規感染者数に落ち着きがみられず、景気はまだ回復していかない。ワクチン接種のスピードにより左右されると考える。
	□	衣料品専門店（経営者）	・今月も緊急事態宣言の影響か、購買意欲の減少もあるとみられ、客が少ない状態である。セール時期である今月でも、売上の増加にはつながっていない。景気は悪い状態のままである。
	□	衣料品専門店（経営者）	・変わらないと答えたのは、先が読めないからである。県内の新型コロナウイルス新規感染者数が連日300人以上となってしまっただけでは、そう簡単には景気も戻らないとみている。
	□	乗用車販売店（経理担当）	・一般向けの販売は悪くないが、長引く緊急事態宣言でレンタカー会社は新車を導入しづらい状況である。
	□	旅行代理店（マネージャー）	・新型コロナウイルス感染の収まる手立てが、効くかどうか分からないワクチン頼みで、このような状態かどうか分からない。
	□	その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・受注状況は2019年比50%前後が続いており、新型コロナウイルスの影響がいつまで続くのか見当も付かず非常に不安である。観光業を回復させる旅行需要喚起のため、Go To Travelキャンペーン以外の即効性がある政策が必要である。
	□	住宅販売会社（代表取締役）	・建築請負契約の減少傾向がみられ、この先に不安が残る。同業他社からも同様の声がある。
	▲	スーパー（企画担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数や緊急事態宣言の延長にもよるが、しばらくは不安定な状況が継続するものとみられる。
	▲	通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染が収束しない限り景気が上向くことは考えにくい。感染者数も増えて緊急事態宣言も延長されるので、外出も控えるようになり客足に影響が出てくるとみられる。
▲	観光名所（職員）	・修学旅行などのキャンセルが増えてきている。	
×	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染が拡大中のため、各店舗で来客が減り大変苦慮している。新型コロナウイルスの流行が終わらない限りは厳しいとみている。東京オリンピックの影響もあるかなと考えている。	
×	コンビニ（店長）	・7月単月で見ると良くなっているように見えるが、県内新型コロナウイルスの感染爆発によりこれから数か月の景気悪化が予想される。	

	×	その他飲食 [居酒屋] (経営者)	・コロナ疲れか、緊急事態宣言のなかで感染者数はどんどん膨れ上がっており、飲食店はいつになったら、通常営業ができるのか、先のみえない戦いで疲弊して閉店廃業が目の前に迫っている。
	×	観光型ホテル (代表取締役)	・8月22日までの緊急事態宣言が8月31日まで延長された。これは10月までの予約に影響してくる。飲食部門も同様に低迷が続いている。
企業 動向 関連	◎	食料品製造業 (役員)	・東京オリンピック後の新型コロナウイルスの感染者数急増が懸念されるが、ワクチン接種の増加や、緊急事態宣言解除後の経済活動の回復に期待感がある。
(沖縄)	○	*	*
	□	輸送業 (代表者)	・宮古島、石垣島の建設関連は、新型コロナウイルスの感染拡大で戦々恐々としているが、民需部門では大型ホテル等で回復しつつある。官需部門においては、宮古島は大型工事が終わり落ち込んでいるが、石垣島は陸上自衛隊関連の工事が進行中である。新規参入船の影響で、供給過多が定着しているため、燃料費高騰の転嫁が難しく苦慮している。
	□	広告代理店 (営業担当)	・県内企業の販促活動は、業種によって多少のばらつきはあるものの、全体的には引き続きコロナ禍の影響下で消極的な状況が続くものとみている。
	▲	窯業土石業 (取締役)	・新型コロナウイルス感染が再拡大しており、影響は当面続くとみられ、民間工事が減少する懸念がある。
	×	建設業 (経営者)	・見込み度の高い新規の客の相談件数が、バタッと止まっている。
	×	輸送業 (経営企画室)	・例年であれば7～9月の繁忙期は物量が1.5倍ほどに増加する傾向にあるが、今年は特に増加の傾向がなく、平均を維持している。店舗の閉店等も予定が多々あるため、下降していく傾向にあると考えている。
雇用 関連	◎	—	—
(沖縄)	○	職業安定所 (職員)	・新型コロナウイルスの感染状況により変動が予想されるが、観光についてはワクチン接種が進めば回復するのではという見立ての事業者の声がある。
	□	求人情報誌製作会社 (営業)	・緊急事態宣言の影響が大きく、解除後の企業経済活動の再開がなければ求人需要も予測が付かない。ただし現状の求人数と比較し、短期間での急激な増減は考えにくく一定数を保ちながら、長期的に時間を掛けて緩やかな増加傾向には向かうと予測している。
	□	学校 [大学] (就職支援担当)	・企業側は新型コロナウイルスの影響をどのぐらい受けるのか様子見がありそうである。
	□	学校 [専門学校] (就職担当)	・新卒採用は今後落ち着いてくるとみられるが、10月からの早期出社に向け新たな求人が来ることを見込まれるため、現状維持ではないかとみている。
	▲	求人情報誌製作会社 (営業担当)	・新型コロナウイルス新規感染者数が増えて外出控えが増加し、求人数減少が予想される。
	×	—	—